



文化活動の力が町を元気に！

「禍を転じて福となす」という言葉があるが、コロナ禍の中・コロナ後を見据えて新しい事業の展開や素晴らしい提案が東京から寄せられている。今から20年近く前、東京へ行くと「東川町」は一体どこにあるのか、「旭川市の隣、北海道最高峰旭岳の麓」と紹介するのが一般的となっていた。しかし最近では「東川町は知っている」という人が都心でも増えてきていると聞く。先日、神奈川から東川町へ移住を決めたご夫婦の話では、偶然同じ店に来ていたお客様の会話の中に「東川町」という名前が出て、「えっ、どうして東川町」と話題になったという。

また某会社の会長は、名刺の住所が東川町となっていると「元気があまる町だ」と言われたそうだ。更に驚くべきことは東京から東川へ対しての提案が寄せられることである。さまざまイベントなどを通じて町を紹介してきた結果なのかもしれない。全国に900を超える町村がある中、どうして東川町かと聞いてみると「自然や文化を活かしたまちづくり」と異口同音に返事

がある。文化活動の力が根付いていると感じる。

例えば高島屋からは織田コレクションなどの展示を東京・名古屋など大都市でコラボ開催、大学との連携、宝島社からは子育て、小山薫堂さんからは写真文化の提案など。

私たちもコロナ禍の中、木工家具クラフト職人の匠を生かした取り組みを行い、新規需要の確保と人々の交流促進を目指して、町の価値創造に取り組んできた。

先月中旬には隈研吾氏と世界の若手デザイナーの登竜門となるKAGUDEザインコンペの最終作品11点（全体36国・地域から応募のあった834点中）の選考も終わり、次のステージへと移る。

大都市東京からの提案とコラボであり、北海道の小さな町・東川町から国内外へ発信していくチャンスである。これらには経済活動が伴い、財源の純増を期待し、子育てやシニア対策の1層の充実に努めたい。

ノマド 漂流する高齢労働者たち (一般書) ジェシカ・ブルーダー／著 春秋社／刊



新しい貧困層が現れた2000年代。一見、キャンピングカー好きの気楽なリタイア族だがその実、車上生活をしながら、過酷な労働現場を渡りある人々である。アメリカのリーマンショック後に新しい高齢貧困層に密着した、老後なき現代社会のルポルタージュ。2021年アカデミー賞で作品賞・監督賞・主演女優賞を受賞した映画「ノマドランド」の原作本。

くまのアーネストおじさんとセレスティヌ (DVD) 販売元:ギャガ



敵対していたくまの世界とねずみの世界。それなのに、ずんぐりと太ったくまのアーネストおじさんとかわいいねずみの女の子セレスティヌの間には、ふしぎであたたかな友情が芽生え、一緒に暮らしはじめることになりました。ベルギーの絵本作家ガブリエル・バンサンンの代表作で、世界中で親しまれている絵本シリーズをアニメ化。(全6巻)

貸し出し図書 ビデオ紹介

せんとぴゅあII ほんの森

【貸し出し】
図書、紙芝居、雑誌は一人合計10点まで(15日間)
DVDは一人2本まで(8日間)

★本、DVDの蔵書リクエストもお受けしています



和食のだしは海のみぐみ2 鰹節 (児童書) 阿部秀樹／写真・文 偕成社／刊



和食のだしといえば、昆布・鰹節・煮干しなど。どれも元は海の生き物で、和食のだしは海のみぐみと言えるでしょう。シリーズ第2巻のテーマは鰹節。南は沖縄から、北は東北地方まで、日本各地の海を疾走するカツオが、いったいどうやって“世界でいちばんかたい食品”と言われる鰹節になるのか。種類や歴史、だしの取り方などを豊富な写真とともに紹介。